



第9回 B：国際理解と国際協力

(1) 生活文化の多様性と国際理解

歴史は暮らしにどう影響している？

～歴史と生活～

監修・講師
森田 浩司

学習のねらい

ラテンアメリカとアフリカの歴史的背景について確認し、それが現在にどのような影響を与えているのかを考察しましょう。ラテンアメリカでは各国の言語と人種・民族の違い、さらには、多様な文化の融合によって形成された生活文化について理解しましょう。アフリカではヨーロッパによる植民地支配の影響や旧宗主国との結びつきをふまえて考察しましょう。

キーワード

大航海時代／植民地／言語と人種・民族／先住民／混血／奴隷／
宗主国／大土地所有制／プランテーション／ファベラ／パンパ／
プランテーション／三角貿易／モノカルチャー経済／人為的国境

歴史的背景が生活に与える影響

ラテンアメリカでは、スペイン人やポルトガル人の流入に伴って、大土地所有制がもち込まれました。植民地時代には、さとうきび・コーヒー豆のプランテーションや大牧場など、大土地所有制にもとづいた大農園での農業生産が主な経済活動でした。大農園の名称は地域によって異なっていて、ブラジルではファゼンダ、アルゼンチンではエスタンシア、メキシコなどではアシエンダなどと呼ばれています。

また、アフリカでは、植民地時代に宗主国への原料供給地となっていた歴史的背景から、現在でもさまざまな商品作物の生産が盛んです。そのため、今でもカカオや茶などの農産物、鉱産資源などの一次産品の生産と輸出に国の経済が大きく依存するモノカルチャー経済となっている国が多く、これらの国では、自国に必要な食料などを生産できず輸入に依存しています。さらに、農産物や鉱産資源の国際価格は大きく変動することがあるため、国家の財政や個人の家計にいたるまで、その動向に影響を受けやすくなっています。

移民の歴史と生活への影響

ラテンアメリカの人種・民族の構成は、国によってさまざまです。ボリビアやペルーなどのアンデス山脈の中央部に位置している国々は先住民の比率が高いです。ここはインカ帝国の中心であり、先住民の人口が集中していたようです。また、エクアドル、チリなどの国々は、白人と先住民の混血であるメスチーソの割合が高いのが特徴です。ここは先住民の人口が多く、かつてスペインの植民地開発が盛んだった地域です。ハイチ共和国やジャマイカなどの国は、アフリカ系の割合が高いです。ここは他の地域よりも先住民が少なく、かつてさとうきびやコーヒー豆などの栽培の労働力として多くのアフリカ人が連れてこられた地域です。このことからハイチ共和国はラテンアメリカで最初に独立した黒人国家になりました。ヨーロッパ系が大多数を占めるのが、アルゼンチンとウルグアイです。ここは先住民が少なく、かつ熱帯作物のプランテーションが成立しにくかったため、アフリカ系の労働者も少なかった地域です。

植民地支配の歴史と生活への影響

アフリカの旧宗主国としては、フランス、イギリス、イタリア、ベルギー、スペイン、ポルトガル、ドイツなどの国々があげられます。アルジェリアからフランス、アンゴラからポルトガル、ケニアからイギリスへの出稼ぎ者や移民者が多く、両国間での経済的なきずなは密接です。また、文化面においても、旧宗主国の言語学習が重んじられていることが多く、旧宗主国の言語が公用語となっている場合も少なくありません。さらに、旧フランス領であるマリなどではフランスパンが食文化として取り入れられるなどしてきました。さらに、イギリスでも経済やスポーツなどの文化面でのつながりも続いています。

ただ、アフリカ諸国では、旧宗主国が機械的に引いた人為的国境線により、民族が分断されたり、多民族を一つの国の中に内包したりしてきました。そうしたなかで、少数派民族と多数派民族との間で、差別や格差が生み出されていき、紛争の火種となっている場合も多いです。